

## 大田区産業振興基本戦略検討委員会 第一専門部会（第3回会合）議事要旨

日 時	平成20年6月26日（木曜日）午後6時から8時
場 所	産業プラザ5階 第1、2会議室
出席者	吉田委員（部会長）、有石委員、塩野委員、高柳委員、田中委員、平賀委員、舟久保委員、松浦委員（五十音順）

### 1. 自由議論

#### ◆ 今回の議論のテーマ～操業環境・企業レベルの支援施策の在り方～

（部会長）

- ・ 今回の論点は、大きく2つに分けられる。「立地操業環境について」「企業レベルの支援施策の在り方について」の2点である。

#### ◆ 資料中のグラフについて

（委員）

- ・ 資料の作り方で、p.17のグラフは圧倒的に「その他製造業」の量が多い。これではグラフの意味がわからない。「その他製造業」という製造業はない。不明があるのはしようがないが、「その他製造業」が一番多いというのはおかしい。

（事務局）

- ・ 総務省の統計であるが、産業分類で捉えきれない部分が多くなってきている。

（部会長）

- ・ たぶん、これはそういったことではなく、機械金属系を浮かび上がらすために繊維産業などを「その他」で一括したグラフを作ったのだと思われる。

#### ◆ データの見方（大田区の受注・外注先の地域）

（部会長）

- ・ 大田区の取引先は国内が多いという資料があったが、たとえばの話だが、キャノンなどのように、国内で納入された部品がキャノン本社を通じて海外工場に実質的には輸出されていることもある。そういった点を踏まえると海外とのリンクや海外展開が少ないという見方は若干違和感がある。

#### ◆ 事業者の創業環境

（委員）

- ・ 大森地区に立地し、以前は周辺にも工場があったが、周囲に建売が立ち始めた。周囲とどう調和していくかは大きな課題である。周辺住民の方に、理解を得るために、盆暮れには手ぬぐいを、会社旅行の際にはお土産を配るなどしている。最近では、職場体験の受け入れなども行っている。また、深夜操業は難しいという点である。

（部会長）

- ・ 地域貢献、CSR、教育と絡めるなど非常に重要な取り組みだと思われる。こうした経営者の実践を、広報を通じて多様な形で区民に周知していくことも重要である。

（委員）

- ・ 試作品が多く、社外秘のものばかりであり、これまで工場見学を受け入れていなかったが、自分の代から受け入れるようにしている。また、弊社の一角は私道に面している。社用車等を駐車していると、近隣住民から文句を受けることもある。なかなか夜の操業は難しいのが

現状である。配慮としては、祭り時に会社駐車場を休憩所に提供、清掃活動など。

(委員)

- ・ 梅屋敷の大森中に立地しているが、後から住宅地域に指定されたため、工場を一度更地にしたら、もう二度と操業することは不可能になってしまうエリアである。ゴミ箱を作製、近隣のゴミ収集も行うなど、近隣への配慮は行っている。また、山形県に工場を建てたが、一つの要因は、大田区内の操業環境にあると言っても過言ではない。それでも大田区に工場を持つ必要性は“大田ブランド”にある。自分たちは過去の財産としての土地があるが、新たに創業しようということはほとんど不可能に近いだろう。大田区のものづくりの成長は困難だと考えている。地価や用途地域のコントロールについて、行政として取り組んでほしい。

(部会長)

- ・ マンションが建てば、価格が跳ね上がる。工場用地としての価格とは雲泥の差である。行政の役割として、資金繰りだけでなく、生産環境を確保していくための条例づくりも視野に入れていくのも一つである。政策の柱としとしても位置づけられるだろう。

(委員)

- ・ 大田区の印象としては、創業しやすいが成長しにくい、と実感している。区内の工場を統合したいと、土地を探したが、空地はデベロッパーに抑えられ、市場には情報が出ない。また、仮工場の候補として下丸子のテナポラリーへ問い合わせをしたが、2フロアを借りることはできなかった。土地が売りに出たという情報があったが坪 300 万円する。川崎であれば、坪単価も半分以下である。大田区でものづくりをやっているという誇りもあるため、その選択肢を選ばなかったが、正直、大田区のものづくり環境は厳しいと言わざるを得ない。

(部会長)

- ・ 大田を愛する想いだけでは食ってはいけない。大田のものづくりへの想いが地域には伝わっていないし、今聞く限りでもかなり操業環境の不便さは共通しているわけで、現状を放置し生産環境の改善に手をつけない限り、空洞化もいた仕方ないと言わざるを得ない。

#### ◆ 施策のメリハリの必要性

(委員)

- ・ 1～3人規模の企業が減少していく、乱暴な言い方だが、やむを得ない部分はあると思われる。ただ、10人以上規模の企業が、そうした企業を吸収するぐらいの成長がないと、大田のものづくり集積の存続は危ういのではないかと考える。全てを網羅するのは困難で、ある程度ターゲットを絞った施策の検討は必要であると思われる。

(部会長)

- ・ 小規模の企業が生きていくためには、発注先である大・中規模の企業の成長は必須である。ターゲットをある程度の規模の企業に絞った施策の必要性も十分にあると考える。そうしたことによって大田のものづくり集積が保たれていくことにもつながる。ただ、小零細企業に対して誤解を招くような表現には気を付けないといけない。大田ものづくり集積の自己変革、区内で仕事を循環させていくための施策として、そういった視点(メリハリ)は重要である。

#### ◆ 大田区ものづくりのグランドデザインの必要性

(部会長)

- ・ 大田区の21世紀の集積のグランドデザインをつくる必要があるだろう。発言にあるとおり、区内の企業が拡大したいなどといったニーズがあるにも関わらず、わざわざ外の企業を誘致

する必要はないだろう。そのためにもグランドデザインは必要である。

(委員)

- ・ 工場アパートや街区、地域性を考慮していく必要があると思う。まちづくりの視点から考えていかなければならないだろう。

(部会長)

- ・ 乱開発にならないような街区の設定、図面づくり、新しい集積基盤づくりの仕組みは重要であるとする。

#### ◆ ものづくり政策と区民の理解

(委員)

- ・ 区民に対しての説得性が重要となる。マンションの立地の方が特別区民税、大田区のバランスシートが良くなるということであれば、そちらを選択した方が賢いという見方もある。ものづくりを進めていくための、区民への説得は必要だと思われる。

(部会長)

- ・ 大田区の中小企業の特徴としては、本社がほとんど区内にあるということが挙げられる。そのため、利益が上がれば、税収にもなり、地域に還元していくということも言える。ただ、一般区民について制度面での誤解があるように思われる今回は、産業振興ビジョンであるため、産業にスポットライトを当てた議論になるが、大田のまちづくりの視点も重要であり、基本計画とのバランスも取った上での検討が必要とされる。

#### ◆ 大田区のものづくりと地球環境への対応

(委員)

- ・ 地球環境の視点で、緑の回廊を作ってはいけないだろうか、と検討を進めているところである。大田区が地球を救う、というようなキャッチフレーズをもって、大田区の製造業の技術を集結させれば可能なのではないかと思ったりもする。

(部会長)

- ・ ゼロエミッション的な発想で集積を作っていくという視点では、シンボルゾーンとしての緑の回廊などの可能性もあるだろう。

#### ◆ ものづくり企業の操業環境確保と区の施策

(事務局)

- ・ 立地規制、街区規制、用途規制といった面的コントロールの必要性はあると思われるが、ただ、地価上昇しているという市場メカニズムの中で、区としてどこまでできるのかは考えていかなければならないだろう。また、工場アパートにおいては課題もあり、入居7年もしくは12年で退出するシステムの中で、入居企業からは「12年問題」と言われている現状もある。工場アパートは一時的に用意された場所ということではなく、定着してもらうためにも、これからの政策転換の必要もあるだろう。

(委員)

- ・ 土地政策の話に絡んでいないというのがもったいないと思われる。短期間の事業展開のための工場アパートでいいのか、土地政策とリンクしていない現状があると思われる。

(部会長)

- ・ 整合性を持たせた形でビジョンを作り上げていく必要があるのだろう。せっかく育てた企業を外に出すのでは意味がない。また、産業振興における公平性というのは、算数の公平性で

はなく、トータルにその事業をみるべきである。各地域で住民は、景観条例などを作っているわけであるから、ものづくり環境を維持するための条例を各種主体との議論を進めていく必要もあると思われる。

#### ◆ 異業種交流の状況（大田区産業振興協会の取り組み）

（部会長）

- ・ 今回の議論の中でも一つのポイントとなるのが、地域のリーディングカンパニーをつくることであると言える。個々の支援施策の整備の議論においても重要な視点である。

〔吉田部会長〕

（委員）

- ・ 産業振興協会で行われている異業種交流はリーディングカンパニーをつくる起爆剤になっているのだろうか？それとも仲良しグループどまりなのだろうか？

（大田区産業振興協会）

- ・ 8グループでの連絡会がある。共同受注の展開を働きかけてきた。その結果、横断的ではあるがそうした兆しも見え始めている。全体としてみると、リーディング企業への展開までたどり着いてはいないのが現状である。

（部会長）

- ・ 異業種交流ではリーディングカンパニーを作るのは難しい。やはり個々の企業レベルで力をつけなければならない。ただ、その仕掛けづくりは重要であると認識している。

#### ◆ 施策評価の視点（企業の成長と施策活用の関係）

（部会長）

- ・ 新しい施策の必要性が出てきている中で、新しい展開に漕ぎ着けた企業というのは、どういった施策を活用していったのか、もしくは、こういった施策があればよい、というような議論についてはどのタイミングで行うものなのだろうか？

（事務局）

- ・ 1まわりした段階で議論に乗せていきたい。

（部会長）

- ・ 施策評価については、費用対効果だけでなく、質（役割）の変化や、未来に向けての評価も考慮していくべきである。

#### ◆ 縦と横の連携について

（事務局）

- ・ 施策活用という意味では、ナビゲートシステムの構築も必要になってくるだろう。それは区の施策に限らず、都・国の施策とのリンケージも必要であり、トータルなカバーが求められていると考えている。

（委員）

- ・ 区、都、国という縦の関係だけでなく、川崎・横浜の横の連携の視点も必要なのではないかと？

（部会長）

- ・ 企業経営上の連携については、行政区域を越えて連携は行われるが、施策上になると、行政系列の枠内でなければならない。リンケージというのは、色々なパターンで整理しながら進めていく必要があるだろう。

（大田区産業振興協会）

- ・ 経済産業省においても、京浜連携というのが盛んに言われ、相互交流会が持たれている。具体的に、今年度は、航空機関連産業についての取り組みを行っていかうという話もある。受発注においての企業間連携はすでに出来上がっている。

#### ◆ 工場アパートの検証視点

(委員)

- ・ 工場アパートを検証できるような資料が必要であると考え。どういった企業が入ったのか、どんな成果があったのかなどの整理が必要だと思われる。

(委員)

- ・ 確かにこれまでの工場アパートについては、ある意味では対策としてできたものである。前向きな施策ではなかったように思う。

(委員)

- ・ 工場アパート、小ロットの工場など、政策としての落とし込みができていないのでは…？単発的なものではなく、ストーリーとしての政策が必要だと考える。そういった視点で、例えば、工場アパートについての検証を行ってほしい。

#### ◆ 羽田空港跡地についての資料作成

(部会長)

- ・ 羽田空港の跡地の活用では時間がかかるのだろうか？

(事務局)

- ・ 羽田空港の跡地は、もう少し時間はかかると思われる。

(委員)

- ・ 次回の議論の中で、羽田の跡地について、国から誘致できる施設などのリストアップをお願いしたい。

(部会長)

- ・ 羽田の跡地については、シンボルゾーンにもなり得るエリアでもあるので、その議論の手掛かりになる資料の提出を次回求める。

以 上